

保育園・幼稚園における音楽活動に関する報告
－実習生を受け入れる現場の状況－

木村みどり・古寺 有希

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第62号抜刷）

報告・資料・研究ノート

保育園・幼稚園における音楽活動に関する報告 － 実習生を受け入れる現場の状況 －

A report on the musical activities in nursery schools and kindergartens:
Their actual condition as places receiving trainees

木村 みどり^{1)†}・古寺 有希¹⁾

キーワード：季節の歌・コード伴奏・発声・保育者・実習生・弾き歌い

1. はじめに

幼稚園、保育園ではどのような音楽活動が行われ、どのような意識で保育を行っているのか。また、子どもたちに与える音楽活動について保育に携わる方々の考え方、指導の在り方、また、将来保育士を目指す学生たちが、幼稚園、保育園での実習中どのように音楽活動に取り組んでいるかを、現場の保育者へのインタビューによって調査した。

本インタビューは「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」にそって保育が行われているか否かの確認をしたわけではなく、養成大学で行われている音楽に関係する授業が実際現場でどのように活かされているかを確認し、今後指導する手掛かりにするために行ったものである。

尚、筆者たちが教員養成大学で器楽（ピアノ）を担当しているため、器楽、伴奏、弾き歌いについての質問が多くなっている。

さらに、実習生の音楽にかかわるインタビューで音楽以外について保育者の方々が話された事項も記載する。

2. 調査の方法・質問の内容

（1）調査の方法

2015年7月～8月、2016年7月～8月、岡山県津山市周辺の幼稚園、保育園に勤務する保育者80名にイ

ンタビューを行い、ICレコーダーに録音した。

（2）質問内容

- ① 季節の歌、昔ながら歌い継がれている歌、わらべ歌について
- ② 昔話、それに関する歌について
- ③ 現在使用している楽譜について
- ④ 子どもが知らない曲（新しい曲）について
- ⑤ 流行っている曲（アニメソング、ジブリなど）を教える方法、選曲のポイントについて
- ⑥ ④、⑤の曲はどのような場面で歌うか
- ⑦ 伴奏形態について
- ⑧ 難しい歌詞の指導について
- ⑨ 移調弾きについて
- ⑩ 養成校時代のピアノの授業について
- ⑪ 歌う声、発声について（保育者、子ども）
- ⑫ 手遊びについて
- ⑬ リズム遊び、リトミック、音楽活動について
- ⑭ 合奏について
- ⑮ CDの活用について
- ⑯ 養成校時代習ったこと、役に立ったこと、教えてほしかったこと
- ⑰ 初めて現場に出て戸惑ったことについて
- ⑱ 実習生について
- ⑲ 実習の事前打ち合わせで、実習中に練習してきてもらいたい曲を伝えるかどうかについて

† 責任著者

1) 美作大学児童学科・美作大学短期大学部幼児教育学科

- ⑩ 音楽の位置付け、思いについて
- ⑪ その他
- ⑫ 男性保育者について

3. インタビュー調査による現状

今回のインタビューに関しては全国的な規模で行ったわけではなく、筆者たちが勤務する大学周辺の岡山県北部の幼稚園、保育園で行ったものである。

幼稚園、保育園で行われる音楽活動、実習生の状況について、また、それ以外にも保育者の胸中を語っていただいたもので、保育者の話した内容（抜粋）をまとめ、保育者の使った言葉で記載する。

① 季節の歌、昔ながら歌い継がれている歌、わらべ歌について

- 学生時代に練習した曲、雑誌とか月間絵本に季節の歌が付いているので今こういったのがよいのだとか参考にしながらか使っている。
- 季節のものもちろん大事にするし、新たに先生それぞれがこんな歌を歌わせたいというのを選んで。行事の歌はほとんど入れる。歌詞の長いものは全部歌う。
- 昔の歌はゆったりとしていて、はっきりとしている。
- 意識してではないが、自分が歌ってきて心に残って、子どもたちの心に残して、こんな歌みんなと歌ったなとそういった思いが残る曲。
- 季節感をポイントで行事に関係するような歌とかが主である。後は自分が小さい時から歌っている曲だったり。
- わらべ歌は、そのものによるが、座ってできるものは帰る前とか、みんなで集まってこれから何かしますよという前とかその状況に応じて。
- 今、楽しい歌が出てきているが、子どもに歌わせた時、声が出なかったり音域が広がったりするが、昔から歌われている曲は無理なく歌えて季節感があるので、必ず四季ごとに、自分が歌ってきた曲を必ず入れるようにしている。昔から歌い継がれている歌を中心に、それプラス流行の歌、音域の難しくない歌を入れるようにしている。昔から歌っている日本の歌を歌って季節感を感じて、おじいちゃんおばあちゃんも知っている歌を子どもに伝えていきたい。
- 子どもは初めて集団に入ってくるので、中途半端なことはできない。だから、昔から歌われている歌を正確に伝えたいと思う。リズム、言葉は、自分の中では大切に思っているが、歌い方であるとか専門的なことは、これでよいのかなと思うこともある。歌い間違い、リズムの取り違いなど、この道に入ってきたことがある。思い込みのまま教えたことも何回かあったので、気をつけなければならないなど。
- わらべ歌は、遊びの中で取り入れている。
- 教える前に童謡を知っている子どもとアニメの歌は知っているが童謡は知らないという両極端の子どもに分かれている。担任の選んだ曲だけではなく、全体で、今月はこの歌を歌おうとか、昔からの歌でも子どもたちは、楽しく歌えるのではないかというのを職員で相談したり、音楽の先生に尋ねたりして、年長、年中共通の歌を歌えるようにしようとする取り組みをしている。季節の歌は固定化している。
- 時代、時代で子どもたちの好きな曲が変わってくるが、唱歌を大事にしながら歌っている。
- 歌い継がれている歌は、歌詞をイメージしながら、そういったところを大事にしている。
- 小さい時口ずさんでいて、意味がわからなくても、大人になって、何かの時このことかなと。たとえば「朧月夜」とはこのことかなとイメージできたら、子どもの時わからなくても、この時期触れることができたと思う。情景が浮かぶ歌を。
- わらべ歌は、遊びの中、発表会の時日本の話をするとき、BGMでかける。

② 昔話、それに関する歌について

- 「うさぎとかめ」も、一番は知っていても二番から知らない若い人が多い。
- 確かに幼稚園でも最近はあまり歌わなくなってきた。
- 劇とか発表会では使ったり、導入する時の一つの手

法として使ったりするが、取り立ててそれを歌ったりしようというのではない。

- 昔はそういった物語しかなかったが、今はそういったものよりもっと楽しいものが出てきた。
- 本を定期購読しているのを読んでいるが、いまどきの話しか読んでいない。
- 自分が知っていなかったら教えることができない。
- 季節の歌が優先になってしまうので、遠ざかってしまう。
- 昔話は、伝えたいので大事にしている。その歌は、物によって使うが、全部は歌わない。
- 昔話の歌は、絵本を読んだ後に歌う。教師は遊びながら口ずさみ、子どもはいろいろなことをやる中で口ずさむことによって自然に家でも歌っている。
- 発表会では、その時の子どもに合わせて時々やる。歌は、絵本を読んだ時歌う。
- おじいちゃん、おばあちゃんが年に何回か集まる機会があるので歌うが、若いおじいちゃん、おばあちゃんは知らない人もいる。0、1、2歳のおばあちゃんは40歳代の人もあるので。

③ 現在使用している楽譜について

- 学生時代に使っていたものや、情報交換でいただいたものをコピーしたもの、良いと思った曲を本屋さんで探して使っている。
- 学生時代使っていた楽譜、今はボロボロになっている。新しい曲は調を変えて弾けないので最初に出会った楽譜を。できるだけ子どもの声の高さにあったものを探してやるようにはしているが。
- 最近良く出ている誰でも弾けるもの、調が変わっているものは買わない。すでに持っているので新たに買うということはない。
- 学生時代の楽譜を、ボロボロになっている。
- 大学の授業で使っていた本を使っている。
- 学生時代の本を使っているが、曲によっては他の先生のものを使っている。みんなで見せ合っている。

④ 子どもが知らない曲（新しい曲）を教える方法

- メロディーを弾くのが一番だと思うが、CDを使って耳からとか、自分でできる方法でやる。歌うばかりではなく、普段からCDを聞かせたりする。
- 片手でメロディーだけを弾きながら。CDを使うとテンポが速かったりするのでピアノを弾かないと子どものテンポに合わせられないのでCDは嫌いです。
- 歌詞をきちっとイメージできるようにしてから歌うというのを心がけている。基本は繰り返し、繰り返し耳からが多いかなと。何回も弾いて同じところを繰り返す。耳に残っているところは、子どもはついてくるので。どうしても歌詞が混乱する時は、発表会があったりする時は歌詞を書いたりする。基本は耳から。
- 自分が歌って聞かせる。歌詞だけ「たなばたさま」だったら言葉自体がわからないので、はっきり言葉を言ったり、少しずつ繰り返し、繰り返し歌っていく。
- まず、イメージをわかせないと歌えないので、歌詞を読むとかイメージをわかせて聞かせながら、自分で弾き歌いをして、そこから少しずつ一緒に歌う。年長だったら長いものであれば、字に書いておけば子どもが自然に歌うのでそういった環境を作っていく。
- いろいろなやり方があると思うが耳から覚えさせる。子どもたちが歌えなくても教師がピアノを弾きながら歌って、全部を通して歌いながら。そればかりだと面白くないので、知っている歌を歌って、こんなものもあるよと新しい歌を歌う。CDとかにある曲は、食事の時流して。この歌のこのフレーズだけを歌いますではなくて、歌うのはいつもフルで歌っている。年長になったら、難しいところ、間違えやすいところは、ここは気をつけて歌ってみようということは当然あるし、学年によって対応の仕方が違う。
- CDをかけて耳から入れて、新しい曲を歌わせる。
- 流行の曲は歌詞に気をつけて、子どもたちが歌詞を間違えて歌っていたら、年長は歌詞を貼っておく。
- 歌のイメージを曲なしで、話から入ったりすることもある。最初はメロディーと歌から。

- ・登園してくる時。研修の時、耳から聞こえる感性ということから童謡を大切にしていくというのを教わって、朝、良い音楽を聴きながら登園するということから活用している。
- ・子どもたちの遊びにあわせてかける。

⑤ 流行っている曲（アニメソング、ジブリなど）を教える方法、選曲のポイントについて

- ・聞いて良い曲だなと思うものや、職員で話し合いをして決めたり、子どもたちが口ずさんでいるもの。それこそ、楽譜を手に入れなければ難しいところだ。私自身は耳で聞いただけでは難しいので。子どもがのるかのかというのもあるが歌詞で、メッセージが伝わるようなものを選ぶ。
- ・子どもがのるかかどうか、メッセージの伝わるものを選ぶが、自分の好みも入る。
- ・聞いた感じで、この曲よさそうだなと思ったら。
- ・おかあさんといっしょとか、歌詞が良い歌で子どもたちに伝えてやりたいという歌を拾って歌うようにしている。
- ・フルコーラスするのではなくて、踊りとかに取り入れたり、運動会のBGMに使うことはある。歌唱指導したりとかには使っていない。何かのBGM的に流したり。
- ・楽譜は変えて使う。季節に合っているもの、季節に関係しているものを選ぶ。春夏秋冬が感じられる歌を入れる。年長だったら、季節感もだが、自分たちが大きくなっていったことに対するものを、卒業前だったらそういったことに対する歌を入れる。今の曲って難しいので歌えない。音域が広かったり、リズムが難しい。今の子どもは慣れているので歌えなくはないが、言葉を大事に歌えない。昔からの歌は、言葉の一つ一つが言葉として生きているので良いと思う。今の子どもに伝えたいので流行っている歌はあまり歌わせない。頭の中に残っていくのは昔からの歌だと思う。自分がそうなので。流行っている歌も良い歌はあるし、それがいけないと言うわけではないが、それを中心にしてしまうと歌の楽しさが子どもの中にのこっていかないような気がする。
- ・アニメで子どもが良く歌っている歌も使う。子どものほうから早く歌おうとか、弾いてくれとか言われてもすぐに弾けないので、メロディーだけとか弾くが、すぐ弾けたらよいと思う。
- ・職員がいろいろな曲を聞いて、歌詞も良いし、子どもたちが好きそうな曲を、その時々で見つけたものを子どもに投げかけて、関心を持つ曲を選ぶ。選んでもあまり関心を持たない曲もあるが。弾き歌いたり、CDを流して、それからみんなで歌ったりする。
- ・業者さんのCDとか、研修会に行って聞いたりした曲を選ぶ。
- ・その時流行っているアニメの歌、子どもが歌いたいと言って、対応できれば歌う。
- ・研修に行ったとき教えてもらった曲とか、子どもたちと一緒に歌いたいと思う曲があれば、楽譜を取り寄せて。
- ・子どもが興味あるもの、なじみのある曲。
- ・子どもが口ずさむ程度で、伴奏をつけてまではやっていない。CDは流すが。「さんぽ」とかは、歩く時に使ったり、子どもたちが知らない曲でも、和太鼓で使ったりして口ずさんだり。祭りの曲を和太鼓ですが、歌は歌えないが、リズムを口ずさむ感じで、大人からみれば何でもこんなに取れるのだろうかと思っている。子どもたちが知らない曲でもいろいろなところで流しているので、自然と耳から入っていく。いろいろなところで口ずさんでいる。生活の中で音楽をかけている。

⑥ ④⑤の曲はどのような場面で歌うか。

- ・何気ない時に歌ったり、集まったとき 歌ってみる感じ。

⑦ 伴奏形態について

- ・基本は楽譜通りでメロディー中心です。本屋さんで自分が弾くことができる楽譜を探して。
- ・楽譜通りだが、弾けないところは簡単にして弾く。

- その時の状況で、楽譜通りとか。手遊びは歌だけとかCDを使って。
- コード弾きが多い。
- 自分でアレンジして弾いているので、楽譜はほとんど見ない。曲の雰囲気大切にしているので、全部がコードではない。伴奏してみても曲の雰囲気に合うものを。子どもにも何でも弾けばよいというものではないので、難しいところは自分でアレンジして一つの曲の中でもアレンジして、自分の弾きやすいようにして。
- 歌いながら、弾きながら、子どもの顔を見ながらなので自分の弾きやすいようにして。歌にくいので、メロディーは必ず弾く。
- メロディーがあったほうが歌いやすいし、初めて歌う時はメロディーを弾かないと、子どもはついてこれられない。
- 大学の授業では楽譜通りといわれていたが、現場に入ってから、難しいと思ったら変えて弾く。ここは無理と思ったら簡単にして弾く。
- どっちかといえば楽譜通り。最近の曲で、リズムがわからないところはCDを聞いて。
- やって見ての感想だが、やっぱりメロディーは弾いたほうが良い。歌にどれだけ自信があるかによると思うが、メロディーは大事。伴奏だけをやったことがあるが難しい。子どもが慣れてよく歌いこんでいれば伴奏だけでも良いが、楽しく歌うのも大事だが、言葉の意味とか日本語の発音など気をつけて歌唱指導しなければいけないと思う。メロディーを弾くが、何回も練習しなければならないとなるとコードでやるが、基本、楽譜通りで少しアレンジして弾きやすいようにする。メロディーは必ず弾く。子どもは音がとりにくいので。
- メロディーは弾く。子どもによって音程が取れる子もいるが、正しい音を正しく伝えるのが私の役割なので。メロディーを弾かない伴奏だと、自分も歌えないし、耳からの正しい音で伝えたい。
- 子どもの時エレクトーンを習っていたのでどちらかと言うとコードのほうが得意。
- 歌の伴奏はピアノでやるが、あまり弾けないのはCDで、生の音はそれには変えられないものがある。ピアノだとテンポを合わせてゆっくりできるし、CDだと遅くすると声がグタグタになってしまう。
- 楽譜通りにやっていない。コードに変えたり子どもが歌いやすいように。楽譜通り弾くと無理がある。リズムに乗って歌えるように、曲にもよるがそれを考えてやると楽譜通りが良い。メロディーは必ずはっきり弾く。
- ピアノが得意ではないので楽譜通りに学生のころからやっていたように。学生の時から使っている自分の楽譜でないと弾けない。習った通りでないと。新しい曲はコード弾きとかで。弾けないからその楽譜がなくなったら大変な事になる。
- 昔からの本であったり、新しい曲は難しいと思ったら、簡単なのを探したり、自分なりのものを探したり、ない場合は、左手をコードで弾いたり、自分なりにアレンジして弾く。
- メロディーを弾かない伴奏は、新しい歌を教える時は厳しいと思う。メロディーがないと歌えない。
- ピアノが得意ではないので、メロディーを弾かない伴奏のやり方があると教えてもらってそのやり方で練習をしたが、メロディーが私の声だけだと子どもは正確な音で歌えなくて、私が上手に歌えるようになったらそのやり方でも良いが、最初は片手だけでも良いのでメロディーを弾いたほうが良いと思った。かえって子どもにとってはそっちのほうが難しいのかなと。短大の時先生に言われたのが、メロディーを弾かなくてもそうやって伴奏だけのほうが歌いやすいと教えてもらったのですが、教えるほうが歌えない。いろいろやってみたが、メロディーがないと歌えないというところに行き着いた。
- 学生の時楽譜通りだった。コードも弾くが、わからないのがたくさんあって、いきなりだと難しいがあるので、楽譜を見てメロディーにあわせて弾く。新しい曲は自分なりに書いて。
- 伴奏が上手な人が弾くと子どもの歌い方が全然違うので、伴奏って大切なのだと思う。同じ子どもなの

に、伴奏の力って偉大だなと。

- コードもいろいろな組み合わせで弾いていると弾くの一生懸命になってしまって、歌にあわせてメロディーだけでも、簡単だけど子どもたちは歌えると。
- 楽譜通りではない。メロディーだけは、子どもにはしっかり弾くという気持ちがあるので。
- 発表会とかは、楽譜通りとか、メロディーを入れないう伴奏を取り入れている先生もいる。
- 楽譜通りに弾くことができるのは弾くが、難しくて弾けそうにないときはコードで弾くこともある。
- 楽譜通りに完璧に弾くことが苦手なので、年少は、初めて歌う曲があるので、メロディーを弾いてほぼ楽譜通りに。年中、年長になると、アップテンポの曲、歌詞が詰まっていたりする曲が多いので、コードで弾いて自分も歌いやすいように変える。
- 新しい歌は、できるだけ楽譜に忠実に。難しいものは簡単にして。
- 普段は簡単な伴奏で弾くが、発表会の中では楽譜通り。
- 学生時代からコード弾きだが、どうしても弾かなければならない時は頑張って練習する。合奏する時は正確に弾かなければならないので。正確に弾く職員は少ないが。
- 得意ではないので、コードで弾く。学生時代もっとやっておけば良かった。現場に入ったらなかなか練習できないので。
- 子どもは正確に取れないので、メロディーは弾く。毎月外部講師の歌唱指導受けているとき、メロディーなしで伴奏を弾く時もあるが、初めは旋律だけを弾いて歌う。メロディーを弾くことのほうが多い。

⑧ 難しい歌詞の指導について

- イメージがわからないので、物を見せて説明しできるだけイメージが伝わるように。
- 子どもたちにわかりやすいように言い換えたりして。

⑨ 移調弾きについて

- しない。子どもがこの曲は声が出ないと思ったら、

その曲は歌わない。自分も出ないし子どもにもどうなのかというようなのは選ばないので、わざわざ移調してまでということはない。

- あまりやらない。授業ではあったが。苦手だが、ほんとうに歌えない時はやる。楽譜に書かないで感覚で弾いている。なんとなく、上げたり下げたりして。
- すぐにはできないので練習してから。すぐにできるようになったほうが良いと思う。

⑩ 養成校時代のピアノ授業について

- ピアノと声楽と別々に、子どもの歌の授業もあったが弾き歌いはあまりやっていない。
- 弾き歌いがあったが嫌だった。子どもの歌が中心で、同級生を子どもに見立てて大勢の前でやった。

⑪ 歌う声・発声について（保育者、子ども）

- 声楽の授業はあったが、弾き歌いの時はピアノを弾くことで必死なので、声楽の授業でやったようにはできない。歌の授業では声の出し方も考えながらやっていたが、それとこれは別である。声楽の授業では何も考えないで声が出せるようになっていけば良いのだが、音程は気にするし、きちんと伝えなければならないがそこまでは難しい。話している声に近いほうが、子どもにはスツとはいるのではないかと思う。声楽の授業で子どもにどのように指導するかはやっていない。また違うので難しいなと思う。
- 声楽で習う歌い方は聞くのはよいと思うが、私は難しいしできない。
- ピアノを弾きながらなので声が負けると困るので、地声ではないが声楽で習ったような声では歌えない。
- 声楽の先生が言われるような声では難しい。
- 怒鳴り声やのどに痛い声はだめと言う。
- それが良いのか悪いのかわからないが、気持ちよく歌おうと。きれいに歌えた時は今の声はきれいだったとほめてやる。
- 聞いたり歌ったりを交互に子どもたちも分けて聞かせる。
- 歌詞をはっきり歌わせる。口をはっきりとあけてと

いう。

- わざと早く歌ったりする子どもには、みんなにどう思うか聞いてみる。
- ただ歌えばよいという子どももいる。
- 歌詞にあわせて動きをつける子どももいる。
- 元気な声と良い声を説明することができない。大きい声で歌わなければいけないがそれをどう伝えるかわからない。
- 教えようにもどうしたらよいかわからない。
- 口のあけ方は普通の口が良いのか、ある程度大きく口を開けて歌うのかかわからない。
- 足を開いてお腹から声を出すように。目は向こうの窓のほうを見てと。腹式呼吸なんかまだできないので、きれいな声が出たとき、こんなきれいな声で歌えるといいねといって。上手でなくても子どもなりに、きれいな声だな、変な声だなと耳にして感じられたら良いと思う。私は、高くなると裏声だが自然な声で歌う。
- どちらかといえば裏声に近いような、私は高いほうではないので、高い声が必要な時は裏声に近い声で、しゃべっているような声ではない。オペラのような声ではないし、それを勉強しているのではないので。子どもに聞かせられるような音程をとって。
- 腹式呼吸でしたほうが息が長くでるが、そういう訓練をしていないので。声楽が好きでそういう訓練をされている方はプラスアルファで、よい発声の仕方が自然に出てくると思うし、そうであるべきだと思うが、自分はなかなかできない。
- 声楽の授業は、ソルフージュと声の出し方を習った。
- 若いときは地声で歌っていたが、歳を重ねるうちに、ちょっと裏声のような感じで。そのほうが届くのかなと、自分なりにそうなった。工夫して、どうやったら上手く歌えるかと考えていると、あまり無理なく。自分が歌えない曲は子どもも歌えないので、歌わないようにしている。
- 子どもは、大きな声でと言うと怒鳴るのです。そうになった時は、きれいな声で、優しい声で歌おうね、

大きな声がいいのではないよと言うと、子どもは変わってくる。そういったように意識して歌わせるように、大きい声がいいのではないと。年少は、元気よく歌えればよいのですが、段階を踏んでいって、年長になると違う。大きくなると、止めて、考えさせて歌わせている。

- ただ、漠然と歌わせるのではなくて、ここはこういうように歌おうと、ただ元気よくという怒鳴り声になったりするので、その指導の仕方を子どもたちにわかりやすい言葉がけの仕方、ポイントをもっと噛み砕いて教えてもらいたかった。
- 子どもたちには、優しく声を出そう、お母さんに話そうに歌おうと指導する。
- 怒鳴って歌う子どもには、お友達の声を聞きながらお友達と同じぐらいの声で歌うともっと良くなるよと。一人だけ怒鳴っている子がいるとお友達の声が聞こえないからねと。しっかり声を出して歌うと、クラスがまとまる。
- 怒鳴り声の子には、大きな口をあげようとか、声かけをする。一生懸命歌っている子がそうなので、優しい声で歌ってみよう。
- 自分が歌う時、発声をあまり意識したことはないが、先生の歌っている声が聞こえないと伝わらないので、子どもたちに聞こえる声で。発声というより、声の量を意識する。
- お腹から出る声、子どもたちに聞こえる声で、子どもたちの声が大きくなってくれば、こちらの声は小さくするし、伴奏を小さくして声が聞こえるようにする。
- 上手に歌えないので、自信はないが、意識して歌う。子どもたちにも口を大きく開けてと言う。大きな声でと言うと子どもたちはイガって歌うので、きれいな声で歌うということを気付かせながら。怒鳴り声の子にはきれいな声でとか優しい声でと。一生懸命歌っている子ほど怒鳴り声になったり、音が外れる。
- ピアノを弾きながら歌うとなると、声もある程度とどかないといけないので、なるべく声楽で習ったような声をだそうと思う。心がけてはいる。

- ・私は、普通の声で歌う。正直、子どもの前で歌う時に裏声で歌うことはない。歌詞を覚えていない子がたくさんいたらはっきりとした声で歌わないといけなないので。声楽の先生は、子どもの前でも裏声でといわれるが、なかなか。
- ・元気よくと言えば怒鳴る子が多いので、のどが痛くなるよとか、小さい子はわからないが、きれいな声で、やさしくかわいい声で歌ってとか。大きい子になると決まった子が、いがって歌うので、声かけをして、できたらしっかりほめている。
- ・年中、年長の子どもたちは、月に一回、声楽の先生の指導で、お腹から声を出すように言われている。以前、音を高くとる子どもがいたが、個性ということで、あまりそのことには触れなかった。そばで一緒に歌っている。

⑫ 手遊びについて

- ・新しい子どもが入ってきたときなど、心のつながりができないので、興味を持たせるため、子どもをひきつけるのにたくさん知っていたほうが良い。年齢に応じた手遊びもしなければならないがなかなか。その場にあった手遊びがすぐ出てこないといけなないので。
- ・学生から教えてもらった手遊びもたくさんある。

⑬ リズム遊び、リトミック、音楽活動について

- ・音楽なしでタンバリンを使って、学生時代に教えてもらったものを自分なりにアレンジして。
- ・学生時代に教えてもらったものを使って、走ったり、止まったり転がったり。
- ・学生時代教えてもらったが、子どもを見ながらやるのは難しい。
- ・学生時代、音楽はピアノと歌だけで習っていないが、現場に出てから曲の速さとかを変えながら、先輩がやるのを見てとか、研修会で習ったのを使っている。
- ・先輩を見て、こんなことができるなど。効果音にCDを使ったり、ピアノで知った曲を弾いて。
- ・雨降りの日に、ピアノに合わせてジャンプするとか、

転がったりして遊ぶと子どもは楽しいので。その時弾く曲は、いろいろ探して、これだったら小鳥のイメージかなとか、いろいろな本を見て弾いてみたりして。

- ・リトミックというほどのことはなかなか。椅子取りゲーム、小走り、歩こうなどピアノを弾いて、その曲を感じ取ってもらったりというようなことを。うさぎになってみましょうというようなことはやっていない。発表会に向けては、いろいろ経験のうちかなと思うが。たとえば劇遊びをするとき、その動物の感じの曲を使う。曲は自分で考えて、イメージで曲に起こす。短いフレーズを楽譜に書く。2小節ぐらいだが。現場に入ったときは既成の曲の中から探した。
- ・最近はそういう本も出ているので、それを見てとか、自分で考えて。昔と違って今は情報がふんだんに取れるのでいかに自分のものにするかだ。
- ・ピアノに合わせて、止まる、そのものになってみる。ピアノは自分で弾く。自分で考えて。楽譜は見なくて、その時その場面で、即興で弾く。表現させたいものがイメージできるような、子どもたちが知っている曲を。現場に入ってすぐはできなかったが、発表会などでオペレッタをするのを何回か重ねていくうちに、自分なりに、こういう場面だったら、子どもが動きやすいとか、経験からできるようになった。
- ・リトミックの授業はあった。先生が弾いた曲に合わせて自分たちが動くというのはあった。その時は子どもになりきっているので、実践できることを習っていなかったもので、現場に出たときはわからなかった。本を読んだりするうちに、ああ、こういうものがリトミックなのだと。即興でやる時は昔から歌われている歌を使ってやる。
- ・楽器遊びとか、リズムジャンプ、簡単なリトミック。体とリズムが一緒に動くようにということで外部講師がやってくださるので、それをまねしてやったり、先生がされたようにやろうと思うが、上手くできない。
- ・いつも歌っている歌にあわせて。

- 発表会ではオペレッタをやっている。
- 昔からリトミックを取り入れているが、入れるものがたくさんになりすぎて、昔だとリトミックに時間をたくさんとっていたが、意識の中にはリトミックを入れなくてはと思うが。遊びの中にリズムを入れながら歌を歌ったり、年長は音楽を聞きながら身体表現をするなど、一応計画では取り入れている。年長はそれが、鼓隊につながっていく。
- スキップのできない子がいる。年長でスキップができるかどうか調べたら、三分の二はできた。
- リズムに合わせて歩く。子どもはゆっくりのリズムは難しく急ぐので、わざとゆっくりしたり。伴奏は、たくさんの種類は弾けないが、子どもが知っている曲を使う。
- 学年によっていろいろだが、リズムを取るというのを意識してやるが、自分が弾くと年齢が小さい子どもだと動きをつけるのが難しく、一人で指導するのは難しいと感じながらやっている。
- 年長は、音にあわせて適当に即興で、雨が降ってきたといったら雨の歌を弾き、いろいろな曲の中で模倣遊びをしたり、リズムに合わせてジャンプをしたり、音が止まったら止まるとか。
- 動物になったり、生き物になったりとかからはじめる。ピアノはイメージにあった曲を。基本はテキストで探して、そのイメージにあったものをおろしたり、アレンジしながら。
- ピアノの音にあわせて体を動かしたり、リズムをたたいたり、物の名前を言いながらリズムを取ったりと、日常の中でやっている。ちょっとした時間に手遊びとかも交えながら保育をつないでやっている。

⑭ 合奏について

- 指導の仕方、楽器の扱い方などどうすればよいか難しい。学生時代習ったのかもしれないが。市販の本で確認したり、音の出るものを指導していたら声をつぶしてしまうので。今はCDもあるから活用したり、自分で弾いていたら指導できないので、CDを活用しながら子どもの様子を見られるように、そこ

も自分で探りながらやってきた。他の先生にこんなやり方があるよと教えてもらって。学生の時自分たちが合奏をやってみた気がするが、実際指導するのはやっていない。どのように子どもにおろしていくかというのはやっていない。

- 楽器の扱いは学生時代習っていたのでそれを思い出しながら。今改めて勉強することが多い。
- 研修に行ったとき習ったもの、リズムがわかりやすいものを取り入れて、一番は子どもたちが耳から良く知っているものが中心。
- 音遊びから始めながら楽器を使っていく。最初はリズムうちから。年長はリズムがそろったら気持ちが良いとわかるので。クラス活動の中で練習していく。
- 打ちやすいリズム、四拍子のリズムで打ちやすく考えて、交代してもできるように。使用楽器が書いてある楽譜で伴奏を見ることもあるが、そこに書いてある通りにはしない。たたき方など自分で直して、難しくなくできるようにして。楽譜に書いてあるのは結構難しいので。自分で考える。
- 楽器の持ち方など、いろいろ説があるが、どれが正しいのかなと思いつながら。
- 初めて楽器に触る子どもがほとんどなので、初めて持たせるのに間違った持たせ方をやってはいけない。楽器によっては、本当にこれでよいかなと不安になる。
- 楽譜を見ないで、子どもたちがリズムに乗りやすい、なじみのある曲、自分で考えて、楽譜はあるが使ったことはない。その子、その子で、ここに入れる、入れないがあるので、変えていかないと、その子たちにあったものをやるので。楽譜通りにはできない。子どもと一緒に作っていくほうが楽しいし、良いものができる。発表会のときは同じものはやらない、毎年違った曲をやる。子どもたちの発達段階に合わせてそうなる。

⑮ CDの活用について

- CDばかりで歌わせると、スピードのこと、つまりいたとき、覚えきれていないとき使う。聞いていて

声が小さくなったときは覚えきれていないのでCDをかける。

- ・自分も参加したほうが盛り上がる時、動きを知らせたいとき、難しい歌のときはCDを使って私も歌って。
- ・絵を書きながらのときは弾きながらではできないのでCDを使い私は歌って。
- ・行事とかではバックミュージックで使う。
- ・新しい曲を歌う時。
- ・音楽に合わせて体を動かす時。
- ・最近だが、CDを朝かけている。わらべ歌もあり、季節感をその歌で覚えたり。朝の決まった時間にかかっていて遊んでいる時に何気に聞こえているといった感じ。歌ったとき、あの曲だよと子どもから聞こえてくることもある。そういった感覚は他の園よりはあると思う。昔はお母さんおばあちゃんが歌ってくれたのを聞いていたが、今はそういった時代になってしまっていて。昔からの歌が大事という園長の考えでもある。
- ・踊ったり、体操する時、歌を歌う時はCDではあまりやらない。
- ・和太鼓をやるとき和太鼓のバックミュージックはCDで。CDは上手く使わないといけないと思う。
- ・発表会の合奏で迫力を出そうと思ったらCDを使う。
- ・お弁当の時BGMで使ったり、こんな歌を歌わせたいなというとき、イメージをつけるため使う。
- ・生の音、ピアノの音に触れることは大事だ。CDはきれいだが、淡々としているのであまり使わない。
- ・CDは良く使う。行事ときは効果音が入っているので雰囲気を出したいときとか使う。
- ・楽器遊びのときピアノだけでなくCDを使うと楽しい雰囲気が出るので。童謡はピアノで弾いたほうが良いし、間違えても、もう一度やろうって練習できる。
- ・新しい歌を歌うとき、こんな曲だというとき使う。
- ・CDで歌うとなんとなくは歌えるが。強弱があるといえばあるが、つかない。
- ・朝の登園時、しばらく遊んでいるときに童謡が流れ

ていて、その歌を部屋で歌うこともある。給食を食べているときBGMで流すと、子どもたちの好きな歌がわかるので、それを歌おうかなとなる。

- ・手遊びはCDをかけながらやることもある。伴奏していたら、体を動かすことができないので、そのときはCDを使って。
- ・合奏するときCDを使って指導する。
- ・日常クラシック音楽を園全体に流している。CDでセットになったものを時期に合わせて流している。給食の時も、年長になると童謡だけでなく、クラシックも流している。レストランみたいに。レストランごっこをしましょうとなると、おしゃれな曲をかけると雰囲気が出るので。子どもたちはいろいろな音楽を聴きながら、親しんでいるのだなと。

⑩ 学生時代に習ったこと、役に立ったこと、教えてほしかったこと

- ・合奏のやり方は現場に出て始めて習った。三十人いたらどのようなパートに分けてとか教えてもらっていない。
- ・合奏はやっていないのでやってほしかった。
- ・発表会があって、ああ、こんなことをするのだというようなので、楽器の持ち方とかこのようにできるという例をあげて教えてもらってればよかった。
- ・大学の時、現場でもっと使える、出てからすぐ使えることを教えていてくれたら良かったのにと、どの分野にしても。
- ・リトミックの授業で使う音楽を、こんな時はこんな曲をと、先生が弾いて見せてくれて自分たちも実践していれば、イメージがわくだろうなと。
- ・理論ばかりだったので、紙芝居を作ったり、現場で役に立つものを作ってあげればよかった。現場に出てからは作る時間がない。ある程度の年数になればできるようになるが。
- ・季節の歌は習ったが昔話の歌とか習っておけばよかった。
- ・授業で、自分でやってみるという経験がたくさんできたらよいと思う。

- ・同じクラスの人が一人ずつ前に出て弾き歌いをした。みんなの前で弾くので度胸がついた。
- ・弾き歌いの授業はあったが、声楽の授業があったかどうかは覚えていない。
- ・ソルフェージュの授業で合奏があった。
- ・発表会で、合奏はつき物なので授業であったほうが良い。
- ・附属幼稚園があったので、そこで実践していたことが役立った。
- ・指導案の書き方は実習前しかなかったので、実習に行っても書けなくて一番困った。現場で必要なので授業でもっとあったほうが良かった。
- ・手遊びにしてもそうだが、実践的なこと、ペープサートなど学生時代に作っているものは財産になる。現場に出ると時間がなくて作れないので。私は小学校課程だったのであまり作っていないくて、短大の人がうらやましかった。作っていたら現場に出て、すぐ役に立つ。
- ・学生時代に作った、エプロンシアター、ペープサートなどがたくさんあればあるほど役に立つ。宝物になる。歌もたくさん知っているほうが良い。弾けなくても知っているだけで違う。
- ・声楽の授業で先生からたくさん楽譜をもらったが、現場に出て初めてあれが大事だったと気がついた。その時はわからないが、身につけておく。踊りでも表現的なものでも、何かいっぱいあれば必ずそれは役に立つ。
- ・楽器の扱い方を、授業で大事にしてほしかった。基本的なことをもっと学んでいたらありがたいと思う。
- ・学生時代に、楽器の使い方、すぐ活かせるものを学んでおけばよかった。子どもに教えないといけないので、正しい使い方、基本的なことを。
- ・授業で役立ったことは、季節ごとに入っている本で、伴奏を自分でつけて、アレンジしたりするのがあった。先生が曲を選んで、ここはこんな伴奏が書いてあるが、他にどんな伴奏がつけられるかと、弾いたり、書いたりした。
- ・学生時代学んで役に立ったのは、みんなで楽器遊びをしたこと。毎年文化センターでやっていたクリスマス会、あれは良かった。いきなり子どもたちとすることはできないので。あの当時は合奏に力を入れていたしオペレッタも先生が楽譜を書かれてやっていた。いろいろなことをするのでイメージができるし思い出にもなる。
- ・私は、大学にはピアノを習いに行く感じでピアノが中心だった。合奏の授業はなかった。
- ・ピアノも大事だが指揮法のようなことをもっと具体的に教えてもらいたかった。やっているうちに少しはできるようになったが、早いうちに知っておけばよかった。
- ・授業で、移調弾きをやってほしかった。
- ・指揮は学生時代習っておいたほうが良い。
- ・大学時代作ったパネルシアターは役に立った。最近あまりやらないが、ブラックシアターは子どもが喜ぶ。学生時代にいろいろなものを作っておいたほうが良い。
- ・授業でペープサートなど作ったが、実践をやってほしかった。3、4年でも、強制的にピアノのレッスンがあったほうが良い。
- ・リトミックの授業では、学生が子どもの立場で動くというのはやったが、ピアノを弾くというのはなかった。今から思えば授業でやってほしかった。
- ・リトミック、リズム遊びは、授業でやっていないので、先輩を見て覚えてやった。
- ・授業で習ったことより、実習に行くと覚えた手遊びとかは覚えている。現場に入って、他の先生を見て覚えるほうが多い。
- ・新任の先生とベテランが組んで覚えていく。経験をつんで身につけていく。
- ・ピアノの授業とは別に、エレクトーンの授業があり、そこでコードを詳しく習ったのが役に立った。
- ・実習に出る前、電話のかけ方、お茶の出し方、言葉使いなどマナーについて、保育園の忙しい時間帯、電話を書ける時間帯、書類の書きなど、細かく教えてもらったので、役に立ったし、知っていてよかった。

た。

- 合奏の時、楽器の持ち方、たたき方など、細かいことがわからないので、どうしたらよいか悩んだ。知らない人が意外と多い。たぶん、小学校でやった気がするが覚えていない。実際に使えるように教えてほしかった。
- ピアノが上手ではないが、学生時代に覚えた曲は自信を持って弾ける。卒業するまでに、いくつか自信をもって弾ける曲が、いくつかあれば、それ以外はその時々練習すれば良い。ピアノの苦手な人は、季節ごとに一曲は弾くことができるようにしなさいと言われた。
- 昔は、ステージでブラックシアターとかいろいろなことをやっていたが、最近はそのような機会がないのでやってほしい。良い経験になった。

⑪ 初めて現場に出て戸惑ったこと

- 大学で学んだことはほとんど活かせなかった。子どもたちに対して保育をやろうと思ったら、設定をしようと思っていろいろ変わってくるし、出たばかりの時は頭が固いので。バリエーションがきかないし、大学の授業は教材研究みたいで。簡単でよいので頭が柔らかくなるような授業なら、現場に出るときわかるのかなと。いろいろなポケット、中にいっぱい入っているものが多ければ多いほど良いのではないかと。ペープサートなど現場に出たら作れないので、後悔している。学生の時いっぱい作っておけばよかったなと。現場に出ると大変で、それを思えば学生時代はまだ時間があるので。作っていく中で、こういった場面にはこれが使えると思いながら作ることが大事だと思う。現場に出てみないと、どういったところで困るのかわからないのだが。
- リトミックの授業がなかったので、難しかったが、先輩を見てやった。子どもが落ちついてきたころにはできるようになった。
- リトミックで、テキストを持ってやったが、子どもを見ながらやるのは難しかった。若かったし、苦にしていたこともある。先輩のアドバイスを聞きなが

ら、先輩が弾かれるのを耳で覚えたりして。

- 子どもが思ってもいない反応した時。
- 現場に入ったとき、一人ひとりのかかわり方が難しかった。

⑫ 実習、実習生について

- 手遊びなどすぐ使えるものを自信持って使えるものを準備してほしい。ピアノも一曲だけでも自信を持って弾き歌いができるようにしてきてもらいたい。
- ピアノを弾くように言わなければ弾かないという、逃げようという態度をとらない。こちらが「弾かないの」と、大分言うと言弾くということがあるので、「弾くのが当たり前だ」と、「実習で弾いてきなさい」と伝えてほしい。自分の感覚で子どもの感覚をつかむチャンスなので。
- 実習生だけど子ども、親から見て先生なので、そういった意識を持ってほしいと言っている。そうなれば言葉使いも変わってくる。教えるだけでなく子どもと対等に生活するのも大事だが。言われたらやるが、言われないとやらない、応用が利かない。これをやってと言われたらそれだけはやるがそれ以外のことはやらない。周りに目が向かないというのもある。
- その方なりに一生懸命されていると思うがとにかくやろうという気持ちの方が大事だと思う。一人でピアノを弾くのと違うので、子どもたちも「間違えた」とか言うが、素直なので、弾き直すより、途中からでも、右手だけでも弾けばよいよと学生には言っている。子どもの前だと緊張する。
- 今の学生は、流行の曲は耳慣れているが、童謡は知らない曲が多いので童謡、季節の歌をたくさん知っていてもらいたい。実習は長いので、3週間目ぐらいになると疲れが出てきて、書き物が遅くなるので、アドバイスもできなくなる。実習の少し前から自分の健康管理をしてほしい。活気がないと子どもたちに与える影響が大きい。
- 手遊びを何曲かすぐできるものを準備したほうが良い。

- 子ども、保護者に対して笑顔で明るくが基本。今は、背の高い人も多いので子どもを上から見下ろすのではなく、子どもの目線で、膝を折って膝をつけてとか心がける。保護者の方もいろいろな方がいらっしやるので、保護者の顔を見ながら子どもをよく観察して、卒業してからではなく実習の時から心がける。現場に入ると大人の相手もしなくてはいけないので。
- 手遊び、パネルシアターなど自分の中にたくさんあると、仕事をしながら準備するのは大変なので、今のうちに少しずつでも用意しておくの良い。
- 絵本もいろいろ読んで、自分がお母さんに読んでもらったのも読み返しておくの良い。
- いろいろなことに目を向けてチャレンジしておく。ボランティアに行くのも良いし、前向きに何事にもトライする。私も学生の時もっとやっておけばよかったと反省している。
- 幼稚園の仕事は相手のことを気遣ってお互いに助け合うこともたくさんあるので、言われながらもやっているうちに身についていくのかなと思う。
- 歌の音程が正しく取れるようにする。トライすることも大事だし、一曲でも良いので、できるように頑張してほしい。コード弾きでよいので。繰り返して練習する回数だと思うし、できたときは自信になると思うので頑張ってもらいたい。歌詞は覚えておいたほうが良い。
- とりえず右手だけでも良いので、実習中ピアノに触らないというのはやめてほしい。現場に出てから困ると思う。苦手なことにチャレンジする姿勢を見せてほしい。できたら、上手でなくても良いので努力を、この曲なら弾けるというのを実習に向けてってもらいたい。一曲でも良いので、その人の実践にもなると思う。ピアニストのようなことを要求しているわけではないので。簡単な童謡を弾けるようになってきてくれるのがありがたい。
- 必死でやっているの、苦手だったら右手だけでもいいのに、と思いながら。一生懸命やっているが間違えたらそこで止まったり。止まらずに弾いたらいいよと言うが弾き直しをするので子どもの歌が止まってしまう。子どもたちも一生懸命歌ってあげようと歌っているが。
- 実習生はリズム遊び、身体表現を恥ずかしがる。体操とか子どもと一緒に踊ったりする時もあまり手本にならない。できないのでそこは指導させていただくのだが子どもは、先生を見ているのでしっかり伸ばすところは伸ばしてと。歌も声を出さないし、ピアノが苦手だったら弾くほうが一生懸命で、弾き歌いができない。声が小さい。
- 人によって違うと思うが、中にはよく気がつく学生もいる。一回伝えたらそのことは気をつけようという方もいるが、何回言っても聞き流す。こっちも何度も言うのもねって方も。間違っても良いし、失敗しても良いから何でも挑戦してみても言うのだが、挑戦しない人が多い。子どもがワーッととなると一対一の指導をしてしまう。一対三十だったらその保育でできるのだろうかというを感じる。自分が描いている保育ができない、臨機応変さが足りない。その場で困ってしまったら困ってしまったままで。失敗を怖がる方が多い。もっとこういうようにと、最初に指導案をたてた時、アドバイスをしてもなかなか冒険ができない人が多い。指導案どおりにできなくても、ある程度機転が利かないと。いくつかは想像して望んだほうが良い。指導案に書けない部分も考えておいてほしい。書くことで精一杯だと思うが、それで困って保育に支障をきたしては。どうしようもなくなる前に、手は出すが、子どもが困ってどうしたらよいか聞いてくる。
- 子どもに対してきちっとした言葉で話をしてほしい。つい慣れてくると出る。そこも仕方ない部分だと思うが、あまりひどいと指導する。言葉使いはご家庭の躰も関係していると思うが。社会に出る前に身につけておかなければならないことは、挨拶、身だしなみなど。
- 指導案が書けない。こちらで説明しないとすぐにはできない。これは度々書いて身になる。
- 近年初心者の学生が増えてきているが、大学に入るとき時点で自分の目指しているところがどういったとこ

ろか知らないのだと思う。実習に来てピアノがすごく負担になっているのを感じる。一生懸命弾こうとするが、楽譜通りに弾こうとするから手が止まって、肝心のメロディーが弾けないと、子どもは歌えない。

- 今、とても便利になっているので、昔だったら、絵本だと確かめて探して選ぶのが当たり前と思っていたら、ここ最近、スマホで見て実際によく見て確かめなくて絵本の予約をする。確かに便利だが、苦労しながら実際足を運んで、目で見て確かめて決めるのが保育だと思う。その中から良いものが出てきたり、それが勉強だと思う。それをしないのがっかりした。確かに便利で、すぐ出てくるが自分のものにはならない。行って見て、自分で探すことが勉強だと思う。教材研究も便利で、写真を探せばなんでもあるが、そうではなくて、この教材から何ができるかなと、自分で考えて何かしようという力がない。すべてのことがそうなのだけど。だから保育もそういった保育になっている。
- 子どもへのかかわり方も、主体性がなく、自分で考えてやろうとしない。言い方が悪いが、楽な保育を選ぼうとする。やる気がないのかなといった感じに見られる。考えて行動する方もいるが、楽なほうに逃げて、言われたことだけをこなせばよいといった学生が多くなってきている。そうでない学生は、自分で考えて行動し、聞いてくる。融通の利かない学生は、書いた通りに進んでいかないとできない。臨機応変にできないと、子どもも苦しいし、動けないし面白くないしどうして良いかわからなくなる。
- 言葉づかいなど、今は接客のバイトをやっている学生は、なれている部分もあるが、それと行動が伴わない。上手に話はあわせられるが行動が伴っていない。
- 大学によってはきちんとマナーを身につけていて、そこからくる学生は、みんなマナーがよかった。その学生は指導案もきちっと書いて、つながっている。保育が上手下手ではなく意欲がある。
- 保育が上手下手より意欲があるかどうか、できなくても一生懸命する人はそれなりに、実習期間で力が

つけられる。意欲のない人は、同じようにやっても全然伸びない。一回言われたことを次の日にどう活かそうかというところだと思う。良くなる人は、次の日に良い保育をしているので伸びる。何回言ってもわからない人は全然伸びない。

- 大学で調べ物をするときネットを使うのではなくて、自分の足で探しましょうとか、なかった時代の良いところを学生時代にしっかりやっていけば、現場に入ったときそれなりに、臨機応変に対応できる。楽に逃げている学生は、保育ができない。子どもは物ではないので、どれだけ自分がそのことにかかわって苦労してというようになろうと思えば、便利なことばかりやっていたら対応できない。学生に「エー」って思われるかもしれないが、何でもネットで調べる、そんなものではないと思う。対応する時もネットで調べましたというようにならないためにも、日ごろから苦労してやってもらいたい。やる気のある人はそういうことをしない。実習に来てスマホは開かないし、自分で行って探してくる。そのこの差がすごく出ている。ここ何年、それがすごく感じられる。
- そういう人ばかりではないが、子どもに接する時あぐらをかいている人がいるが、日ごろのしぐさが出る。靴の後ろを踏むとかちょっとしたことだが、意識してほしい。
- 実習に来る時、一番は体調管理。先生が体調を崩したら笑顔でいられない。自分で考えて意欲的に最後まで頑張る。待つのではなくて、わからないことはどうしたらよいのかと自分で言えるように。
- 子どもたちの知っている歌だったら、ピアノを弾いて歌えるように、先生が歌わないと子どもたちは歌わないので、歌をしっかり。
- 実習生は、子どもと歳が近いので手遊びをするにしても子どもが食いついてくる。こうしてやろうとか思わずに子どもと接するので、子どもたちと自然に触れ合っている。一生懸命だったり、素直だったり気付かされることがある。
- 緊張して自分が出せない。難しいことだと思うが、

せっかく自分が持っている良いところをどんどん出してもらいたい。型にはまったことだけでなく、自分の得意なところを出してほしい。遠慮しないでやってもらいたい。

- 失敗して、叱られても気にしない。ピアノも上手なのに全然弾かなかったりする。
- せっかくの体験だし、実習が終わると子どもと接することがないのに、苦手だからと弾かない。
- シャベリ方とか歩き方、子どもが真似をするので気をつけてほしい。
- ピアノが弾けなくても、よく動く子の方が実践に向いている。
- 学生は、ピアノを弾くことからより、手遊びで歌うことから入ったほうがやりやすいと思う。「もしもし、かめよ・・・」だったら、お手玉とかボールをつきながら歌うなど、いろいろな場面で使う。小さい組の子どもは、移動するとき歩きながら歌っている。何かあるごとに歌を口ずさみながら。そういったところから学生は、入るほうが良いと思う。実習生でこの曲しか弾けませんと言う人もいるが、弾くことも大事だが一番は歌うことだと言っている。歌いながらやってごらん、ピアノが止まっても先生の声でやっていけば良いと言っている。
- 実習前のオリエンテーションでは、基本のこと、時間、持ち物、言葉使いのことなど話している。
- 今は複数で来るので、力の差が大きくみられるので、互いの力を出し合って、一段上にあがってくれるのは良いと思うが、みんなについていけない人たちが、提出物が出なかったり、欠席、遅刻が出てきたり、子どもたちの前に立つまでの段階で、くじけてしまう人が中にはいるので、この場に立てるということをありがたいと思って、取り組んでくれる気持ちが、もっとあったらよいのだが。
- 真面目で一生懸命というのはあるが、みんな同じことはするが、突出できない。自分の良さをそれぞれ出せない。ピアノが得意な人はピアノを、手遊びをたくさん覚えてきた人はそれを、絵本が好きな人はそれを。自分のよさをしっかり出し、苦手なところ

は少しずつでも頑張ってやればよいのだが、出せない人が多い。幼稚園の子どもたちにも必要なことでもあるし、学生は自分で切り開いていかなければならない。実習、就職でそういったことが頭を打ち困るところかなと思う。

- 実際、子どもの前で弾かないと、これも経験で、実際やって見てわかることなので。年中、年長は歌う機会が多いので、朝の会とかで一回は弾いてみたらと言うが、弾かない人がいるので、やってみてくださいとお願いをする。
- ピアノの得意な人でも、子どもの前で弾くのは難しかったと、反省会のとき言う。こんな曲をやってきたと、こちらからは言っていないので、弾ける人は、練習してきた曲をどんどんやってほしい。
- ピアノに一生懸命で声が聞こえない。子どものほうを見る余裕もない。
- 私が指導している時、観客になって歌わない学生が多い。聞いている人が多い。
- 子どもが知っていると思って練習してきた曲を弾くが、学年によっては知らない曲があったとき、ピアノを弾くだけではなく、まず自分が歌ってこういう歌ということを聞かせて、ピアノを弾けばよいと言うのだが、子どもが知らない歌をどうやって子どもに教えたらよいかわからない。子どもが知らない歌をピアノで弾くだけではなく、しっかり歌うことも考えてやってほしい。
- ピアノを間違えた時、止まらないで歌っていけばよいと指導するのだが。そういう時歌が大事だ。
- 実習生がメロディーを弾かない伴奏で指導すると、子どもたちは、目が点になる。しっかり歌える人なら良いのだが、その弾き方で現場に出ると大変だと思う。声で引っ張っていければよいのだが。正しい音をとるためにも、メロディーがあるほうが良いし、よく歌えるようになる。発表会などではそれでも良いと思う。
- 日案をたてて、書いて実践し、それ以外にも部分があるが、二日間では出し切れないので、こちらから言わなくても自分から「やらせてください」と言っ

- て、どんどん子どもたちの前に立ちなさいと、実習前の最初に言うのだが、なかなか思い切れない人が多い。せっかく実習に来ているので。私たちはいつでも代わると言うのだが、失敗しても良いので、上手くやれなかったら自分なりに考えてやってほしい。
- ・今これだけ多くの卒業生が資格を持って出て行っているのに、常に私たちは人を探している状況なので、今の学生にこの仕事の魅力みたいな、大変でもしんどくても、そこには子どもたちから良いものをもらえる素敵なお仕事だということをいっぱい感じてもらって、職場に来てもらいたい。しんどいこともたくさんあるし、お給料についても厳しいと思うが、それにかわるだけの価値ある仕事だということをいっぱい感じてもらって、卒業してもらいたいなど。最近特に感じているのが、この仕事につきたいですという人が減ってきている。資格だけもって卒業しようという人が多く、小さい時からこの仕事につきたかったと夢を持ってくる人がいなくて。そこをできるだけ実習を通してかかわってもらって、大変だけど楽しいし、幸せなお仕事なのだというを感じてもらいたい。実習の期間は叱らないといけないので。理念みたいな、魅力ある仕事だということがわかってもらいたい。そうすると、ピアノも子どもたちの前でできるのは、実習の時しかないのと言って実習を始めるのだが、逃げる。体験できるのは、学生の時だけだと言うのだが、学生も変わってきているし、そんなに失敗をしないで育ってきている。私たちの世代とは変わってきている。実習で挫折する人もいると思うが、実習で頑張って就職したが、いろいろあっても心積もりを持って望んでもらえばと、話をするが伝わっているのかどうか。
 - ・書きなれていないので、漢字も誤字脱字が多い。文章を書きなれていないというのは年々感じる。
 - ・頼んだことはするが、自主的にやらない。自分は頼まれているが、人は人というような。一緒に実習に来ているのだから手伝ってあげればよいのと思うが、そこは今の学生は、はっきりしているのかなと。
 - ・自己評価が高く、自分に言われたことができればオッ

ケイみたいなどころがある。

- ・実習に出る前に観察実習で来たとき、日案を渡していても持ってこない。
- ・一回目は筆記用具を持ってこなくても許しているが、メモを取ることをしない。今はスマホがあるので、それでとればすむ。メモ代わりに。それで書くことに困らない。実際はそれでは困るのだが。
- ・手遊びで、ペープサートを見せて歌っている時の音程がどうなのかと気になることがある。みんなの前で緊張しているせいもあるが、本人は気にしていないようだ。笑顔だが、声が暗いし通らない声で、しんどそうに歌う。
- ・学生は教えなければいけないという気持ちがあって、どんどんいくのだが、子どもは歌えない、ついていけない。気持ちが焦るのもわからなくはないが。
- ・リズムの取り間違いなど、ゆとり世代の学生に私たちあまり要求してはいけないのかなと思っている。時代なのかなと。
- ・お別れ会などで盛りだくさんのことをやってくれる中で、歌の音程が外れていたり、子どもも一瞬「ウン」ってなる。幼稚園はすべての始まりの場面なので。
- ・やる気が感じられたら私たちも応援するのだが。
- ・指導案などねらい、援助の部分も書き方が難しいと思う。ピアノとか歌が、二の次になってしまうのは指導案があるからだと思うところもあるが。
- ・反省会で、私たちはメモを見ながら話すが、聴くのが精一杯でメモを取りきれていないのではないと思う。最近の学生は、メモを取る習慣がないので。はじめるよと言っても、メモ、筆記用具の用意ができていない。言わないとメモ帳を用意しない。指導する時自分の指導案さえ用意してこない。平気だったりする。
- ・若い人で感じるのが、終わったらそれで終わりみたいなところがあって、終わったら、次は何をしようかが見えない。
- ・昔のように、自分から率先してというのがない。若い人って気がつかないのかな、時代かなと思う。

- 私たちの時代は、上の先生より先に動かないといけ
ないと言われていたが、最近はそれがない。いつの
時代からかそうなっている。教えていかないと
いけない。私たちの時代は、自分の姿を見て動い
てと思うのだが、今は言わないと動かない。
- 子どものお世話をするとき、あぐらをかいているの
には驚いた。それはだめだと思うが普通にする。無
意識なので、そこから言わないといけないのかなと。
私たちも頭を切り替えていかないといけないのかな
と。昔なら考えられないことだ。
- 子どもたちの思っていることを考えてほしい。自分
を出せる子ども、出せない子どもがいるので、出せ
ない子どもに聞いてあげるなど心の部分を大事にし
てほしい。仲間同士のかかわりを見て大事にしてく
らいたい。学生は、一生懸命なので、子どもたちの
中まで見られないし、難しいところだと思うが、実
習期間中、少しずつでもその部分を思える気持ち
になってほしい。その気持ちで接してもらおうと、子
ども同士が支える集団になるので。そこを大事にし
ながら、全体を見てもらいたい。
- 簡単な伴奏でゆっくりで良いので、最低限弾き歌い
をしてほしい。間違えても止まらないで最後まで止
まらないで。間違えたらパニックになって、つない
でいけなくなる。初めて歌う歌は、先生が止まると
子どもも止まる。ある程度歌っている歌は、止まっ
てもどんどん歌うが。止まってしまったら、あそこ
から弾こうという心構えが大事。
- 感じるのは、学生はみんな同じ手遊びをする。子ど
もたちは、新しいのを期待している。学生も自分が
やりやすいものをやるのだと思うが。音程を正しく
取ってほしい、子どもは何も言わないが。
- 実習で0、1、2歳児を担当するとピアノに触るこ
とはないが、歌は知っていても歌わない人が多い。
つい歌うということがない。赤ちゃんを見る時も、
黙って見るだけで何もしないし、抱っこしていても
じっとしている。歌ったり、話しかけない。私たち
が歌うと歌いだすのだが歌っているから仕方なく歌
う感じがする。「かわいいね」とか「どうしたの」
とか思ったことを声かけしない。
- 音程が外れている学生が多い。
- 将来保育士を目指して夢を持って現場に来て、挫折
してしまったら寂しいことだ。挫折して帰ってもら
ったら困るが実習生の力や想いがわからない。
- 最近は、あぐらをかく人が多い。中には立てひざを
する人がいて、すぐ動けるようにと学校で教えても
らったそう。
- 髪はくくってほしい。子どもがどの角度から見ても
先生の表情がわかるように。
- ピアノが苦手な人は練習してほしいが、リコーダー、
鍵盤ハーモニカ、ギターでも良いので方法を考え
てほしい。できないのなら、どんな形でクリアした
らよいのかを。片手だけでも良いと思う。子どもには、
今は片手しか弾けないが、これから頑張ると言え
ばよい。恥ずかしいことではないので。何かの方法を、
どうやったらできるかということを自分で考えてほ
しい。それが、段取りだと思う。
- 学生は穏やかにかかわってはくれるが、もう少し自
分から何かをしてみようとか、もっと積極性がほ
しい。自分を出せない雰囲気を作っているのか、何
をやってもよいのかかわからないのかもしれない。と
いうことがある。
- 最低限、譜面が読めて、音符の長さがわかってほ
しい。聴いていて、リズムが何か変ということもある。
- 弾ける曲は本当に少ない。自分のペースで弾くので、
子どもを見ながらということは本当に難しそうだ。
子どもが先生のペースに合わせて歌うという状態。
ピアノが壁に向かっているので、子どもの顔を見
ると自分の手元が見えなくなってしまうので、キー
ボードだと子どもの顔が見えるので、キーボードの
部屋で弾かせたりと、環境を整えることで対応して
いる。
- 四歳になると子どもたちも、その伴奏に合わせよう
とするので、難しい伴奏でなくてもしっかり歌うこ
とで対応してほしい。ピアノが苦手ならば、ピアノ
でなくても歌を歌うことで、ピアノにこだわる必要
はないと思う。自分ができることで音楽が楽しめる
ほうが良いと思う。

- ・通常歌っている「ぞうさん」とかは、よく知っているが、それが果たして弾けるかどうか。
- ・子どもの前で弾くのになれていないので、緊張したり、子どもの歌う速さとあわなかったりするが、やっているうちに慣れてくる。
- ・全日、部分（指導）は現場に出たら必要なことだし、いやでもやらなければならないし、教科書では学べないことが学べるので、ここでできたらと思っている。学生がどう取るかわからないが、こういった方法もあるということが、現場に出たとき役に立つという気持ちでやってほしい。
- ・新人の人もだが、学生は、子どもの前で弾くと緊張して、子どもの速さと自分が弾く速さが合わなかったり、戸惑ってあわなかったり。子どもたちはよく歌うので、聞いているだけでもよいので、楽譜を見てもわからないのであれば、CDとか聞いて、歌だけでも歌えるようにしてほしい。
- ・実習生を見ていると、手遊びをたくさん知っている人は、急な空き時間などすぐ対応できて困っていない。手遊びだったり、事前に作ってきたアイテムを出せる子は落ち着いて急なときにも対応できている。手遊びも一個ぐらいいしか準備していない子は困っている子が多い。
- ・紹介式で最初に子どもの前に立つとき、手遊びを間違えたり、歌が出てこなかったり、かわいそうな感じがする。恥ずかしいというのが先にたつのではないか。子どもといえども自分のほうに注目するのでじっと見るので。すごく緊張しているのが痛いようにわかる。
- ・早く寝る習慣をつけて、健康面を気遣ってほしい。
- ・聞いてほしい。何を聞いてよいかわからないかもしれないが、コミュニケーションがとれるように。聞いてくれると、何がわからないか、こんなことが困っているのだとこちらもわかり、アドバイスできるので、どんどん聞いてほしい。
- ・身だしなみ、爪の長い子が多い。子どもたちに傷をつけてはいけなし、髪の毛の長い子はくくってもらいたい。ティーシャツ、ジャージだが、ダラットした

ティーシャツを着ていると印象が良くない。第一印象は身だしなみだと思うので。事前に来るときも、きちっとした服装で来ると好印象だ。きちっとしていなかったらこの人どうなのだろうと感じる。

- ・子どもたち、保護者の方から見ても恥ずかしくない格好を心がけてほしい。

⑨ 実習の事前打ち合わせで、実習中に練習してきてもらいたい曲を伝えるか。

- ・何曲か伝える。そのほうが練習しやすいと思って。
- ・好きなので良いと言うと、自分がその立場だと困るので、全部は弾けなくても何曲かの中から弾けるようにと言う。
- ・必ず歌って練習してくるようにと言っている。
- ・曲は言わないが、何か質問ありますかと聞くとどんな曲を練習してきたら良いかと必ず聞く。
- ・昔よりピアノが弾けない学生が多くなってきているので、これだけはこの曲を決めて、練習してきてくれば充分だと。何曲もということは、最近はやらない。できるだけ両手で子どもたちが歌えるように頑張ってねと言うのだが。
- ・必ずどんな歌を歌っているか、担当するクラスに聞いて楽譜を渡している。せめて片手だけでも弾けるように練習してきてほしい。肉声だけでももちろん良いが、リズム、音程など教える立場なので、私たちは見本になるということになれば、そういったことはしっかりとしてほしい。
- ・簡単にして弾けばよいと言っても、簡単にする方法を知らない。
- ・事前に、楽譜をくださいとか、どんな歌を歌っているかと聞く人も少なくなってきた。
- ・「さんぽ」「アンパンマンのうた」など、できる人は準備していたほうが良い。子どもたちは喜ぶし印象が残る。実践できる曲も練習したほうが良い。
- ・実習生で、9月でも「うみ」しか弾けないという人がいたが、この機会を逃すといけないので「いいよ」と言ったら「もし間違えたら止まって弾きなさいですか」と、聞かれたので、「子どもはあわせてくれ

るから、弾きつづけたら、のって歌うとおもうよ」と、言ったら、子どもがあわせた。

- ・実習生は、毎年来ているが、ピアノがあまり弾ける状況ではないので、あまり要求しないようにしている。ピアノのことを言うと落ち込むので。
- ・保育者は、ピアノが最低限弾けるというのが最善の利益だが、ピアノが弾けなくてはと条件をつけると、保育者になる人が減ってくる。
- ・季節の曲を、大学で練習している曲を尋ねて、弾ける曲を練習して来てもらう。楽譜があれば渡さないが、なければコピーして渡す。朝の会などで歌う曲は決まっているので、片手だけでも弾けるように、せめて歌が歌えるようにしてほしい。

⑩ 音楽の位置づけ、思い

- ・歌は大体毎日歌っているので、年間を通して計画を立てているので、生活の中では大事にしている。
- ・豊かな心にするために音楽だけではなくいろいろな分野が入っていて、一日の中で流れたらよいなと思っている。
- ・静と動の部分で取り入れながら生活のことを歌ったものもあるから、くどくと言わなくても入っていくこともある。遊びの中で覚えていくというように、教えなくても音楽を楽しんで覚えていく。
- ・声は身近な楽器なので歌は大事にしていきたい。音楽の中でも人間関係があるので、いろいろな場面で人間関係を学ぶ場だと思う。人間関係のことを大事にしながらやっていきたい。歌う楽しさとか、歌を歌っていたら気持ちが一つになり一体感が感じられ、奥が深いなと思いながら。歌を歌ったら笑顔になるし楽しいなと思う。ピアノひとつでも子どもの気持ちを乗せることができるので、もっと練習しなければと思っている。
- ・情操教育が一番だと、音楽をするっていろんな意味があると思う。歌を歌うことでいろいろな効果があり、合奏をすることで楽器に触れるウェイトが高いのでトータルしていろいろな場面に入ってくる。密着度は高い。構えてやるのではなくて自然な形でい

ろいろな場面で入っていくので音楽は大きいと思う。

- ・音楽は鼻歌から始まると思うが、子どもたちは、美しい音楽のときに口ずさんでいるので、その気持ちももてるもの。
- ・生活の中に切っても切れないような大きい存在だと思う。音楽が楽しめる環境があればよいなと思う。本物が聞ける環境を作っていきたい。一度、卒業式で入場する時の曲の音楽を決めるとき、どんな曲にしようかということで、マーチをかけると子どもたちはこの曲ではないと、他にクラシックの曲をかけて選んだのをみると、子どもたちはその場にあった曲を選ぶことができるのだなと思ったので、いろいろな曲に親しんでもらいたいと思う。
- ・小さい時から生活の中で身につけるもの。
- ・毎日、音楽はなければいけないなと。音源がなくても口ずさんでいる、気分が良かったら鼻歌を歌いながら。音楽ってそういったものだ。うれしい時は、歌が自然に出てくるものだと感じる。子どもたちにとっては、あるのが普通なので大事にしていかなければいけないと思う。わらべ歌も自然に歌うので、子どもたちも身につけてきているのかなと。みんなを集めてわらべ歌を歌うと、ピアノがなくてもCDがなくても、子どもたちは歌えるのだなと。音楽が体に身につけているのだなと。お父さんやお母さんと一緒に、小さい社会の中でも歌ってもらいたいし、大事にしてもらいたい。
- ・歌とかを通して生活習慣を身につけていけたらよし、歌ったり聴いたりすることで楽しさが味わえたりする。

⑪ その他

- ・楽譜は自己負担なので、できるだけ園にあるものを使う。
- ・ピアノの練習は家でやる。園で音を出すのが恥ずかしいので。
- ・「びわの歌」を歌ったが、どこで習ったのだろうと思って、母が歌っていたのを聞き覚えて覚えていて、やっぱり小さい時人から聞いて耳に残っているから

歌うことができる。改めて母を思い出した。

- 今思い出したのが「柱の きずは・・・」っていうのを、今幼稚園では歌っていないが。時代が変わっても残していかないとけない。
- 楽譜は季節ごとにファイルして仕分けをしておけば便利。
- 5月ごろは子どもも慣れていないので、ピアノが止まったら子どもも歌うのをやめる。先生のピアノが下手とかと言うのは口にしないが、先生が止まっても歌ってねと言うと歌うようになってくれるし、先生も一生懸命やっているなと感じてくれる。
- 子どもといろいろなことが経験できるので楽しい仕事だと思う。
- 読み聞かせは、語りかけるように読む。子どもの様子、反応を見ながら、ただ一方的に読むのではなく。
- 研修会、勉強会は、学生の中から行ったほうが良いと思う。世界が広がるし、いろいろな世代の人に混ざって経験するのも良いことだ。
- わらべ歌は、お母さん自身が知らない方が多い世代になってきていると感じることがある。
- 発表会での劇で昔話は子どもも見ている側も大好きだ。最近の創作だと親も見えてわからないから、自分の子どもが出ていると一生懸命見るが、違うクラスを見ていて退屈するので、知っているお話だと見てもらえるかなと思って、私は昔話を使う。
- 童謡を知っている子どもと知らない子どもと最初から差がある。おばあちゃんが近くに住んでいたりすると比較的童謡をはじめから知っているし、お母さんがゆったりとしていると子どもが童謡を本当によく知っている。
- 仕事中はピアノの練習はできないので、朝早く来て練習したり、夜遅くまで残って練習する。
- 楽譜は自分で購入する。
- 朝の遊びの後部屋に入ってきたらピアノを弾いたりとか、集まったとき落ち着いた場を作るために弾いたりとかする。
- 以前は弾けない人は簡単な伴奏で弾いていたが、今は弾けないから弾かない。発表会で弾かなければなら

なくなっていて、練習するが弾けないので担任でない人に代わってもらう。そのようなことをするからますます弾けなくなるのかもしれない。頑張ろうと思わなくても、何とかしてもらえる、いつも誰かが補助してくれると思っている。

- 以前は、ゴムとび、ボール遊び、手遊びする時歌いながら遊んでいたが、若い職員は、遊び歌を知らない。職員が知らないのも、子どもと一緒にそういう遊びをしない。だから園では、今年はどういうことを取り入れてと、指導案の中に入れればするが、特別そういうことを入れなかったら、何もしないままですで終わる。
- 外部講師に歌を指導してもらい、子どもたちはきれいな声で歌っていて、職員はきれい、上手になったと思っていても、それを言葉で上手く言えない。思っている表現の仕方がわからない。
- 保護者の前で職員が歌うと好評で、喜んでくださる。若いお母さんは、おしゃべりをしてあまり聴いていないが、何回も聴くうちに、子どもが家に帰って歌ったり、鼻歌で歌ったりしているのを気付くが気付かないかは別にして、一人でも気付く親がいればありがたいし、うれしい。そういう時代だ。意識してやっていかなければだめだと思う。
- ピアノが得意な人は良いが、苦手な人は、簡単なのだったら弾けるがそれ以上は難しい。大学で楽譜通りでなくて簡単に弾ける方法を教えてもらえたらよいのだが。
- 楽譜が読めないのには驚いた。
- 今の人は、遠慮しているようでしていない、はっきりと言わない。何を言っているかわからない。私たちのほうが気を使うときがある。
- ピアノの苦手な人は習いに行ってくださいといっている。弾けなかったらやめなさいと。こういうことも大学で言ってほしい。歌えないのも困るし、たかさんの歌を知ってほしい。
- 若いお母さんの中には、昔からの童謡など知らない人もいる。情緒的な歌、「故郷」にしても、私たちは、「うさぎ おいし かの山」はイメージできる

- が、イメージできない。そういったことが非常に増えてきていて、説明してイメージしてもらおうということなので、共有しにくい。自分がそういったところに身を置こうかということにもつながらない。だからよけいに離れていく。絵本もそうである。昔話も知らない。おうちの人にお知らせすることで、そういえば、子どもの時に読んだ絵本だったとって、少しは興味を示して、子どもと読む。今は、子どもだけではなくなかなか上手いかわなくて、おうちの人にお知らせすると、家庭で読み、歌い、一緒に家庭を巻き込むことも一つの方法だ。
- 家庭での時間はあるわけだから、外に出て、お月さんが出ていたら、「でたでた つきが・・・」と歌うと子どもも覚える。蛍が飛んでいると、「ほほ ほたるこい・・・」と自然に歌が出てくる。それが、どこか耳に残っている。
 - 昔ながらの歌は、友達と声を合わせて歌うことができる。そういうのが良いところだと思う。みんなで歌うことが楽しいことだと思う。そういうのを大切にしていけば、心を傾けて、友達のを聴きながら歌うことができるので、大切にしたい。「七つの子」もいとおいしい歌だし、「柱の キズは・・・」が耳に残っていて。生活と密着した歌で、子どももスッと入る。昔ながらの歌は生活自体に入っている。それを歌う機会が、今は少なくなってきているのが残念だ。本当に大切なものが失われつつあるという危機感を、現場にいるものが再認識なくてはならない。
 - 子守唄も知らないお母さんが増えている。授乳しながらスマホをつついていて。最近、スマホが歌ってくれるし、お化けも出てきて踊ってくれる。子育ては生活そのものだと思うが、何もかにもデジタルの世界になっている。
 - 若い人は自分のことを中心に考えていきがちなので、こちらの意図もわからない。新人教育も同じである。ピアノは避けて通ることはできない。一概には言えないが、この道に入った以上は、使命としてやらなければならないということを、大学でも伝えてほし

い。できなくても、できるところまでやろうと。

- 今は子どもたちが、集団行動が取れないとか、そっこのほうにエネルギーをとられてしまい、本来の子どもの生活がなかなか補強できなくて。その時に音楽は助けだと思う。
- 保育園の中にいろいろなグループがあり、その中に音楽グループがある。それぞれの年齢に分かれて、音楽グループを作っていて、それぞれが年間計画を作成する。
- マナーについて、園長がいろいろな場面でそのつと言ってくれるので、言ってもらわないと気付かないこともあるし、言われなかったら気付かないでそのままだし。
- 保護者の対応は、学生の時は気がつかないが、現場に入って身についていく。若い先生が対応できない時はベテランが出て行き、それでも無理なら園長が対応する。マニュアルが出ているが、すべてがマニュアル通りには行かないので、へこむこともある。

② 男性保育者について

- 子どもにも刺激がある。女の先生にできないことができる。
- メリットは、体を使って遊んでもらえる。少し危険なことでも一緒になってやってくれる。子どもも、男子学生にはスリルも望む。デメリットは、性格にもよるが、きめの細やかさが無い。私たちから見て、心配り、目配りしたほうが良いと思うとき、そうでない場合がある。
- 女性の中に入ってくるのは、すぐく勇気がいると思うし、逆の場合だったら戸惑うのですごいと思う。人懐っこい人のほうが、コミュニケーションが取れるので良い。自分から話ができる人のほうが良い。職員室ではよくしゃべるが、保護者とはしゃべれない人もいる。学生時代、女子と良くしゃべれるとか、グループ活動ができていれば大丈夫だ。

4. 調査からの共通の問題点

- ・子どもが安定した音程で歌えないうちは、メロディーを弾いたほうがよい。
- ・良く歌えるようになったら、メロディーをいれない伴奏形態でも良い。
- ・保育者は張った声の出し方がわからない。
- ・子どもが怒鳴り声で歌った時の指導の仕方がわからない。
- ・昔から歌い継がれている歌を歌う機会が少なくなっている。限られた曲しか歌っていない。
- ・若い保育者は、昔から歌い継がれている歌を知らないし、歌詞の意味を理解していない。
- ・合奏をするとき楽器の正しい扱い方がわからない。
- ・実習生に関して。
 - *歌いながらピアノが弾けない。
 - *ピアノを間違えたら止まったり、弾きなおす。
 - *子どもたちを見ながらピアノが弾けない。
 - *歌声が小さくて聞こえない。
 - *手遊びですぐできるものの準備ができていないし、準備している曲数が少ない。
 - *手遊びを歌う時の音程が気になる。

5. まとめ

音楽活動は子どもたちの成長、心の発達に大きな影響を与え、子どもたちの可能性を引き出す大切な役割を持っている。

必ずしも音楽の知識、技術の低い保育者が多い現場で、子どもたちの感性を大事にするには、保育者のかかわりが大きな影響を及ぼす。そのために保育者にとって一番重要なのは感性を磨くことであるが、最低限の音楽的知識、伴奏、歌、リズム感などを高めていく必要がある。特に、保育者の歌声は子どもたちに歌う楽しさ、心地よさを感じさせる重要な役割を持っていて、歌えることが大事なポイントであるが、インタビューからわかるように、ベテラン、新人にかかわらず、多くの保育者は、養成校時代声楽を授業で学んでいるのだが、歌うことに自信がなく、声の出し方について悩んでいるのがわかる。さらに、子どもたちが

怒鳴り声で歌った時、指導の仕方がわからないと困惑しているのが読み取れる。以前は、母親が食事の支度をしながら歌を口ずさんだり、ふとした光景を見て歌っていたのを耳にし、言葉の意味がわからなくても、大きくなってその光景を目にしたとき、歌詞の意味に納得したものである。近年、生活環境も変わり母親、祖父母が仕事をしているため子どもと一緒に過ごす時間が少なく、時間にゆとりがないといったこともあるが、家庭内で家族と歌を歌うという環境がなくなりつつあり、昔ながら歌い継がれている歌を知らない若い世代の母親、保育者を目指している学生が増えている状況であり、歌の情景を子どもたちに感じさせるよう歌うという豊かな表現技術が保育者に求められる。

養成大学で器楽（ピアノ）を指導している中で、将来保育者を目指しているが、ピアノはまったくの初心であり、音楽の基礎知識を身につけていない、音符が読めない、リズムが取れない、歌えない、歌にコンプレックスを持っているなど、保育者に要求されている音楽的能力を持っていない学生が増えているようである。現場に出て気付くことも多いであろうが、学生のうちに備えておかなければならないことも多くある。

養成校では音楽の基礎的能力を習得することは必要であるが、保育現場で役立つ能力を養い、保育者としての資質が求められるのではないか。

6. 結び

インタビューを通して保育を目指す学生が、音楽的資質をいっそう高め、保育者としての資質を身につけていかなければならないことが明らかになった

養成校での音楽関係の授業内容について改めて目的を確認し、保育現場で即役に立つ具体的な授業を展開することが望まれるのではないか。基礎を学ぶと同時に、教わる立場から教える視点で学び、子どもが楽しめるようにするには、保育者を目指す学生が、音楽に興味を持ち、楽しみながら歌、合奏などを通じて幅広い感性を高めていくことが必要であると考え、保育者を目指す学生自身が、なによりも心から楽しみながら音楽活動を展開していくことが大切ではないかと

思う。

謝 辞

本稿作成にあたり、お忙しい中、快くインタビューに応じてくださった幼稚園、保育園の保育者の方々に深く感謝申し上げます。

